社会福祉法人
キャンバスの会

〒885-0082 宮崎県都城市南鷹尾町13−2

キャンバスの会
理　念

障がい者（児）に対して、

地域社会での自立を実現するための支援に関する事業を行い、

もって社会福祉に寄与することを目的にしています。

理念の下、障がい者が精神的および経済的自立を目指し、

地域社会で生き生きと暮らすための支援

および就労支援の場として事業を行い、

働く意欲のある身体障がい者、知的障がい者、

精神障がい者の方々に働く場を提供し、

精神的、経済的にも自立していくことを目的とした施設です。

CONTENTS

02 発刊にあたって
キャンバスの会理事長　楠元洋子

04 15周年によせて

23 キャンバスの会はどんな色
15年のあゆみと事業所メッセージ

15期役員･スタッフ

| 発刊にあたって |

親亡き後も自分らしく生きてほしい 最終目標である夢の実現へ

社会福祉法人キャンバスの会　理事長 楠元 洋子

キャンバスの会は2019年5月で創立15周年を迎えることができました。

これもひとえにお取引先のみなさま、福祉・医療や行政等各関係のみなさまからのご指導、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2001年8月1日、主人の母の介護のため、重症心身障がい者の娘と二人で、大阪の豊中市から都城市に戻ってきました。

当時、都城では豊中市と同じような障がい者へのサービスがなく、認知症の母と重心の娘の二人を抱えて苦しい日々を送っていました。その時、都城の「ひかり園」という施設に娘がお世話になることができたのです。

そこで知り合ったお母さんと二人、手弁当で障がい者団体への紙おむつの販売を始めました。その利益を寄付し、子どもたちが地域で生きていける場所をつくりたいという思いから活動を続けていたのです。

その後都城市からの後押しもあり、2004年5月に我が家の2階を事務所にして電話一台、パソコン一台で、障がい児・者の保護者会が中心となり、特定非営利活動法人キャンバスの会を設立しました。

母親11名がヘルパー資格を取得。我が子が地域で安心して暮らせるために、また親亡き後も変わらぬ生活が送れるように支援する事業をしたい。子どもたちのためだけでなく、「自分たちも社会参加をしたい。外で働いてみたい」という母親たちが望んでいる夢の実現でもありました。

「キャンバスの会」として最初に取り組んだ事業は、障がい児のための学童保育とレスパイトサービスで、私が子育ての中で一番欲しかったものです。

養護学校（支援学校）の空き教室を二室借り、夏休みから送迎付きで身体障がい児・知的障がい児約30名を、学生とシニアの方々の力を借りて学童保育を始めました。まだ、学校が終わった放課後に子どもたちを預かる制度がなく、介護や支援をボランティアですべて行ったのです。

子どもたちは、夏休みにいつものように登校して友達やボランティアと楽しく遊ぶ時間を持ち、母親たちは毎年疲労困憊（こんぱい）する夏休みに自分の時間を少しだけ持つことができ、買い物や休息、ティータイムを楽しむことができました。

このスタートから3年後の2007年、主人が都城に戻り社会福祉法人の立ち上げに加わりました。体調を崩し、1年半という短い期間ではありましたが、「障がい者の経済的自立を目指す」という志をひとつにして一緒に活動できた大切な時間だったと思います。

その志を実現すべく、キャンバスの会は雇用の場の提供に力を入れてきました。重心の子どもたちに必要な紙おむつの仕入・販売、介護施設や病院・学校への配食事業、レストラン、加工食品会社のクリーニング（リネン）、農福連携、六次化事業は地域資源を活用し、地元企業との新商品の開発、「ふるさと納税」への参入等々‥です。障がい者の働く場と雇用を結び付け、規模を拡大し、どんなに障がいが重くても「働く」ということを大切にしてきました。

2014年、宮崎の保護者の10年来の願いであった重症心身障がい児・者の福祉サービス事業所を宮崎市花ケ島に開設。この事業所では今まで予想していなかった医療的ケアの必要な子どもさんが通所の半分以上を占めています。利用者の安全と職員、保護者の安心を確保するため、2016年4月、同事業所に「はながしま診療所」を開院することになりました。これは同事業所の短期入所施設19床が「医療型短期入所施設」として認可されたものです。私たちの夢の実現に向け一歩前進したところです。

子どもたちに必要と思われる事業を形にし、どんなに重い障がいがあっても、みんなと同じように自分らしく生きること、「空いっぱいの大きなキャンバスに子どもの夢、親の想いを形に」と思いを込めた「キャンバスの会」。障がい種別の違いがあっても、分かり合える境遇の親同士、地域のつながりや出会いの中で子どもたちの幸せ支援を続け、最終目標である親亡き後の支援づくりに邁進して参ります。

まだまだ未熟な私たちです。これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

最後に、今は亡き初代理事長・楠元義文とともに心からの感謝を申し上げ15周年のご挨拶とさせていただきます。

衆議院議員

野田 聖子

「障がいを抱える息子の母親として」

毎朝5時に息子に起こされることから私の一日は始まります。特別支援学校への通学バスに間に合うよう慌ただしく身支度を手伝い、毎朝、停留所まで息子を見送ります。

息子は妊娠中に臍帯ヘルニアと心臓疾患があることがわかりました。しかし、「この子を産む」以外の答えは私の中にありませんでした。生まれた後も、食道閉鎖症が見つかり、それが原因で気管軟化症となり、気管切開をして人工呼吸器をつける手術を受けました。その他にも大きな手術を10回も受けています。また呼吸が止まった時の後遺症から右手、右足に麻痺があり、今でも自由に動かすことはできません。

8年前、このように沢山の障がいを抱える息子の母親となってから、私の政治への思いがガラリと変わりました。「政治は弱者のためにある」と頭ではわかっていても、本当に理解ができていなかったことに気付かされました。「息子が生きやすい世の中になれば、みんなも生きやすい国になる」と、どのような政策に携わる時でも、障がいを持った息子を基準に考えるようになりました。

そして息子が生きていく中でぶち当たるさまざまな障がいを取り除いていくこと。それが結果として、同じ立場にあるお子さんや親御さんの進む道を切り開くことに通じる。そのような思いで取り組むようになりました。

息子は今まさに、特別支援学級への入学問題に直面しています。障がい児と障がいのない子ども達がともに育つ学びの場からは、多様性を学ぶことができます。問題にぶち当たることも多々ありますが、どうしたら息子が特別支援学級に通学できるのか、教育委員会や学校に足を運んでいます。

障がい児・者を育てる空気がまだまだ整っていないこの国において、私と同じ立場の親御さんが抱える「親亡き後」の不安を少しでも取り除くためにも、インクルーシブ教育や切れ目のない支援体制の構築、そして、障がい者が個々の能力を発揮できる多様な働き方改革にも取り組んでいます。

今年15周年を迎えられる、社会福祉法人 キャンバスの会は「障がいのある子たちのニーズに応え、親の思いを形にしていくこと」を活動の根幹とされ、働きたいと願う障がい者の方々に働く場を提供し、地域社会で自立をし、生活ができるようしっかりと支えてくださっています。

楠元洋子理事長をはじめ、施設に携わられてきたみなさまのご尽力に深く感謝申し上げます。これからも、障がい児・者とその家族のために、お力と希望を与え、ともに歩んで下さいますようお願い申し上げます。

参議院議員

自見 はなこ

障がい児・障がい者のみなさまが希望を持ち安心して暮らせる社会の実現へ

社会福祉法人キャンバスの会が創立15周年を迎え、記念誌が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

障がいの有無にかかわらず、子どもたちが皆、幸福、愛情および理解のある雰囲気の中で成長すべきであることは、個人の人権が尊重される社会において自明の理であり、児童の権利に関する条約においても謳われています。2004年に楠元洋子理事長がご自宅を事務所として障がい児学童保育のボランティア活動をスタートされて以来、15年間にわたり障がい児・障がい者の社会参加による自立支援や、重症心身障がい児と介護者である保護者のサポート等に取り組んでこられたキャンバスの会のみなさまに、心より敬意を表します。

キャンバスの会が設立された2004年以後の15年間で、わが国の障がい者福祉はさまざまな取り組みがされてきました。しかし、未だ十分とはいえない状況です。とりわけ、災害時における避難情報の伝達や避難所での生活、人工呼吸器のバッテリーの供給など、本来であれば最も弱い立場にある方々に配慮しなければならない場面で、課題が多いことも事実です。また、成育過程にある子どもには、それぞれの障がいの程度、特性によりさまざまなニーズがあり、個々人に相応しい対応が求められるところ、医療、福祉、教育のより一層の連携も求められます。こうした現状を改善していかなければならないと、国会議員として強く感じております。

昨年12月8日、「成育基本法」（正式名称:成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律）が衆参両院で全会一致にて可決・成立し、12月14日に公布されました。この法律は、これまで、児童福祉法や母子保健法、児童虐待防止法など個別の法律で対応されてきた施策を連携させ、妊娠期に始まり出生、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期を経て大人になるまでの一連の成育過程で、医療、福祉、保健、教育が連携して妊産婦や子どもたちを切れ目なく支援するための包括的な理念法です。公布から1年以内の施行の日まで、政府で「成育医療等協議会令」（政令）を制定し、医療従事者や有識者から成る協議会の設置をはじめとする必要な体制確保について検討が進められます。法施行後は、政府に対し「成育医療等基本方針」を策定し、閣議決定するとともに、同基本方針に基づく施策の実施状況を毎年公表することが義務づけられています。政府の取り組みが「見える化」されることで、周産期母子健診事業や保健指導の充実、医療的ケア児への支援も大きく前進することが期待されます。成育基本法を活かして、障がい児・障がい者のみなさまがより一層希望を持って自分らしく、安心して暮らせる社会の実現のため、全力を尽くす所存です。

15周年を節目に、新たな歴史を紡いでゆくキャンバスの会のさらなる発展と、わが国のすべての子どもたちの幸福を心より祈念申し上げて、お祝いの言葉と致します。

衆議院議員

武井 俊輔

祝　辞

社会福祉法人「キャンバスの会」が設立15周年を迎えられ、宮崎市・シーガイアコンベンションセンターにおいて記念式典が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

貴会は2004年5月、都城市において、障がい児学童保育のボランティアとしてスタートされ、3年後に社会福祉法人への認可以来、障害福祉サービス、医療的ケア児への支援、就労のバックアップ、生活介護、相談支援事業、給食・リネンサービスなど、社会福祉の各分野において、多角的で意欲ある活動を展開され、輝かしい実績を重ねて来られました。これもひとえに、楠元洋子理事長はじめ、スタッフ、職員ならびに関係者のみなさまのご尽力のたまものと深く敬意を表します。

澄み切った青空を「キャンバス」に見立て、子どもの夢と親の想いをともに描きたい―というのが会の名称の由来で、理事長がその第一歩を踏み出されたのは、重い障がいを持つ娘さんとともに暮らす自宅からだったと伺いました。わが子が、親亡き後も安心して暮らせるように―との願いから、とも記されています。

どこか、わが家で静かにくつろいでいるような、安らぎとぬくもりが伝わります。こうした「やさしさ」が法人独自の理念として広く培われ、運営面において最もコア(核)となる公共性や安定性、働きやすい環境づくりが醸成されていると思われます。加えて、地元のまちづくり、活性化にも積極的に目を向けておられ、信頼感に裏打ちされたバイタリティーと行動力が地域社会との交流の深さに直結しているものと推察されます。

ことし5月、元号が改まり、新しい時代が幕を開けます。さらに2020年には東京オリンピック・パラリンピック、宮崎県では初の全国障害者芸術・文化祭が開催されます。全国大会に向け、これからいかに情報を発信し、地域力を発揮していくか。期待感とともに、目標と課題も生まれています。

貴会の設立15周年は、まさに時代の節目と重なりました。これから新たに踏み出される一歩は、さらなる歴史を刻む意義ある一歩でもあります。子どもたちから高齢者お一人お一人まで真正面から向き合われ、想いを尊重し、自立と生きがいのあるサービスを幅広く提供され、どっしりと地域に根を下ろした社会福祉活動の充実に一段と寄与されるよう願っています。

終わりに、貴会のますますのご発展と、みなさまのご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

参議院議員

長峯 誠

祝　辞

このたびは、社会福法人キャンバスの会が創立15周年を迎えられましたことに心からお慶びを申し上げます。

貴会は、楠元理事長が2004年5月に障がい児学童保育支援のNPO法人を立ち上げ、2名のボランティアスタッフと自宅2階の小さな小さな事業所からスタートされました。当時、県議会議員だった私に、「どこから手をつければいいのか」と相談に来られた覚束なげな楠元理事長からは、今日のお姿は想像だにできませんでした。

2007年には社会福祉法人の認可を受け、弁当・配食やリネン事業等を通し、自ら働き報酬を得る喜びや苦労を分かち合い、利用者の方やご家族のみなさまとともに生きがいの場を創出して来られました。

現在では宮崎市で重心や医療的ケア児への支援へと活動も拡がりをみせ、利用者の切実な声に寄り添い、さまざまなニーズに応えて社会福祉の向上にご尽力いただいて来られました。

昨今の少子高齢化に加え、慢性的で危機的な人手不足の深刻さが増す中、貴会の障がい児・者支援は、障がいを持つ方の日常生活、社会生活の営みのみならず、そのご家族に対するケアサポートにも重要な役割を担っています。

長いお付き合いをさせていただいている中、言い知れないご苦労もありながら、持ち前の明るさと前向きなお人柄でいつもパワフルに邁進してこられた楠元理事長やスタッフのみなさまには、いつも頭が下がる思いです。改めて、これまでのご功績に対し深く感謝するとともに厚く敬意を表したいと存じます。

医療的ケアが必要な障がい児・者の支援の充実が望まれるなか、さまざまな専門的知識、困難な課題が山積する重症心身障がい児・者の支援活動事業は、自治体・医療・保健・福祉・教育等といった所管部署との連携が欠かせません。すべての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け官民一体となって、取り組んでいかなければなりません。時代とともに見直されてきた支援が、今後さらにきめ細やかで質の高いものとなり、みなさまのニーズに応えられるよう現場の声をしっかりと拝聴しながら国政の場で活動して参る所存です。みなさま方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますのご繁栄と関係者のみなさま方のご活躍ご健勝を祈念致しまして、お祝いと感謝の言葉とさせていただきます。

宮崎県知事

河野 俊嗣

設立15周年に寄せて

社会福祉法人キャンバスの会の設立15周年を心からお祝い申し上げます。

貴法人におかれましては、2004年に障がい児学童保育などを行うNPO法人として創立されて以来、障がいのある方やその御家族のさまざまなニーズに対応するため、就労継続支援事業、生活介護事業、短期入所事業等に取り組まれ、ここに15周年の節目を迎えられました。これもひとえに、楠元理事長をはじめスタッフのみなさまのたゆまぬ御努力の賜であり、深く敬意を表する次第です。

さらに、最近は、働く場の充実のため農福連携に取り組まれるとともに、重症心身障がい児（者）や医療的ケア児とその御家族が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療型の短期入所施設を開設されるなど、本県の障がい福祉の向上に大きく御貢献いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、県では、「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい宮崎県づくり条例」に基づき、障がいの有無によって分け隔てられることなく、互いに人格と個性を尊重し合いながらともに生きる社会の実現を目指し、各種施策を全力で推進しているところです。また、2020年には全国障害者芸術・文化祭の本県開催が決定しており、障がいのある方の自立や社会参加をより一層進める好機としたいと考えております。

こうした中、新たに策定しました県総合計画「未来みやざき創造プラン」の「長期ビジョン」におきましては、障がいのある方が地域で生き生きと暮らすための社会づくりに取り組むこととしております。

県としましては、このように現場で御活躍されている方々からの御意見をしっかりと受け止めながら、今後とも、地域でともに支え合い、心豊かに生活できる社会づくりに努めてまいりますので、引き続きみなさま方の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、社会福祉法人キャンバスの会のますますの御発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

宮崎市長

戸敷 正

祝　辞

「社会福祉法人キャンバスの会」の15周年記念式典が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

また、理事長をはじめとする関係者のみなさま方におかれましては、長年にわたり、障がい福祉の向上にご尽力いただいておりますことに、心から敬意を表します。

中でも、「障がい福祉サービス事業所　はながしま」におきましては、重度心身障がい児・者や医療的ケアの必要な障がい児・者の支援を中心に事業が行われており、宮崎市内においても数少ない取り組みであり、改めて感謝申し上げます。

さて、国の障がい者施策において、昨年度は新たな障がい福祉サービスとして、自立生活援助や就労定着支援、居宅訪問型児童発達支援などがスタートし、今年度においては、幼児教育無償化や児童福祉法の改正など、障がいのある方を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

このような中、本市におきましては、2018年度を初年度とし、2027年度を目標年度とした、まちづくりの基本指針である「第五次宮崎市総合計画」がスタートし、「障がい者の自立と社会参加の促進」を主要施策の一つとして事業展開を図り、「未来を創造する太陽都市　みやざき」の実現に向け取り組んでいるところでございます。

また、昨年度からの3カ年計画として策定している「第5期宮崎市障がい福祉計画」に沿って障がい福祉サービス等の提供確保について推進し、障がいのある方が、地域で安心して自立した生活が送れるようさまざまな障がい福祉施策に取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも、障がいのある方が安心して暮らしていくことができる「共生社会」を実現するため、福祉の向上に取り組んでまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、社会福祉法人キャンバスの会のますますのご発展とみなさまのご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

都城市長

池田 宜永

社会福祉法人キャンバスの会 15周年をお祝いして

このたび、『社会福祉法人キャンバスの会』が創立15周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴法人におかれましては、2004年にその前身である、『NPO法人キャンバスの会』を都城市に設立され、『障がいのある子どもたちのニーズにこたえ、親の思いを形にしていくこと』を活動の根幹とされております。

また、『利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する』ことを法人の目的として、長年にわたり障がいがある人の日常生活の向上や社会生活を営むことができるよう、地域社会に貢献されてこられました。

これもひとえに、楠元理事長をはじめとする職員のみなさまの日々の努力と熱意の積み重ねの賜物でございます。改めて、敬意と感謝の意を表する次第でございます。

近年、福祉を取り巻く環境の変化とともに、福祉に対するニーズもますます多様化しています。

このような状況下で、貴法人の事業所によるふるさと納税の返礼品の配達準備や野菜の加工・販売等による障がい者の就労機会の創出や、在宅やグループホーム入所中の障がい者に対する献身的な取り組みは、障がいがある人の生活向上に貢献し、安定的な福祉サービスの提供の一翼を担っており、非常に心強く感じているところでございます。

本市といたしましても、障がいのある人および障がいのある児童が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、必要な障がい福祉サービスを地域において計画的に提供するため、障がい福祉の推進に全力を尽くしてまいる所存でございます。

今後とも、地域の福祉力の向上のために、なお一層のお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに、設立15周年を契機として、『社会福祉法人キャンバスの会』が今後ますますご発展されますことをお祈り申し上げますとともに、関係するみなさまのご健勝、ご多幸を心より祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

公益財団法人
ヤマト福祉財団
理事長

瀬戸 薫

ヤマト福祉財団小倉昌男賞とキャンバスの会

社会福祉法人キャンバスの会15周年おめでとうございます。

ヤマト福祉財団は、2012年12月4日一般社団法人日本工業倶楽部にて、理事長楠元洋子さんに第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を差上げました。お弁当配食サービスとクリーニング事業において顕著な成績を収められただけでなく、そこに至るまでの功績も選考委員より高く評価されてのことでした。当時、選考委員会は、キャンバスの会や楠元さんの活躍は全くのノーマークでした。推薦状を見てみると、わずか8年ほどでクリーニング事業を確立しただけでなく、お弁当の配食事業もものすごい勢いで伸びていて、地域が求めていた潜在ニーズに見事にマッチしていることがみてとれました。

おむつの販売で小さな実績を積み上げたことが会のはじまりであったこと、おむつの仕入れ先からの紹介で始まった産婦人科や産院から出る産着や布おむつのクリーニング。重度障がいの子どもたちのきざみ食から始まった配食事業。その一つひとつの商売の着目点の良さと元主婦の目線に選考委員もすっかり魅了されていきました。推薦者の（社福）清樹会の岩下博子さんのことは事務局がよく存じあげていて選考委員の確証につながっていきます。永年の功績を誇る他の候補者の中にあってもこの実績は劣ることなく、むしろこれからが期待されるような受賞者が現れた瞬間でした。

お弁当の品質と一日の製造個数は他の障がい者施設のそれとは一線を画するものでしたので、ヤマト福祉財団の「夢へのかけ橋」実践塾の塾長として楠元理事長にも就任をお願い致しました。この実践塾は、一番最初にやり遂げた人の真似をすることで、誰よりも迷わずより早く目標に到達するという考え方に立ち、その経験をノウハウとして提供するものです。キャンバスの会のお弁当の神髄は、お値打ちでかつ飽きのこない日替わり弁当というもので、日々のPDCAを回すことで実績を積み上げていく素晴らしいお手本です。毎日お弁当の写真をとるというアイデアも塾生にわかり易く、何が良かったのか悪かったのか塾生たちも自分の作ったお弁当の記録写真を振り返りながら着実に成績を上げています。

貴法人についても受賞された当時からさらに発展を遂げており、特にキャンバスの会の原点である重度障がい者の支援については、医療的ケアを必要とする重度身心障がい児・者に対して、提供する側の概念にとらわれず、切実な福祉を求める家族の側に立って徹底した理想を実現すべく国内屈指の福祉を提供されるまでになっていることもたいへん喜ばしく思っているところです。

この宮崎の地でまったく新しい事業を立ち上げることの苦労は想像に難くありません。しかし、やってみせたという実証は、どんな言葉よりも重いものです。全国から多くのご家族が見学に訪れ、夢や希望をお土産にして戻っていくことで、各地で血の通った福祉が届くよう公的支援の必要性も高まってくることでしょう。

障がいのある人やそのご家族とともに常に福祉を追求してきたキャンバスの会のますますのご発展を願っております。

株式会社エブリイ
代表取締役副社長
岡﨑 裕輔

キャンバスの会との出会いは財産

社会福祉法人キャンバスの会様ならびに関係者のみなさま15周年誠におめでとうございます。キャンバスの会様は都城を中心に障がい児・者のご支援等の素晴らしい取り組みをされておられます。また地域に根ざした地道な活動を展開されておられ、地域のみなさまからも絶大なる信頼を受けておられます。こうした素晴らしい取り組みをされているキャンバスの会様が15周年をお迎えになられることは、非常に喜ばしいことであります。

当社エブリイは広島県福山市に本社があり、広島県に27店舗、岡山に11店舗、香川県に4店舗と合計42店舗でスーパーマーケットを展開しております。キャンバスの会様との出会いは、4年前当社の新分野開発の担当者が、新規開拓のため宮崎の生産者様への訪問を行ったときでした。宮崎県には全く地縁も人縁もなく、宮崎県の生産者様の新規開拓で非常に苦労しているときに、ご支援をいただいたのがキャンバスの会様です。キャンバスの会の楠元理事長様が当社の新分野開発の担当者から、宮崎との取り組みを進めたいとの想いを汲み取ってくださり、多くの生産者様をご紹介いただきました。

キャンバスの会様のご支援により、甘藷類の畑買いや宮崎牛の一頭買いや加工品等の取扱高が順調に増えて行き、2017年6月の宮崎県様と株式会社エブリイホーミイホールディングスとの連携協定につながりました。この連携協定を締結できたのもキャンバスの会の楠元理事長様のご尽力のお陰と深く感謝しております。連携協定において、産地と消費地との連携だけでなく、農福連携も施策として大きく取り上げられています。これは、ただ単に商品の連携だけでなく、農業と福祉の連携を通じて障がい者支援を実現したいとの楠元理事長の強い想いが滲み出たものです。現在、宮崎県産の商品は、広島、岡山のお客様から大好評を頂戴しており、特にキャンバスの会様の加工品はエブリイの名物商品となっております。

エブリイのグループでは現在障がい者の方を90名以上雇用させていただいております。店舗勤務の障がい者の方たちだけでなく、特例子会社の株式会社すまいるエブリイという障がい者就労支援会社があります。すまいるエブリイではエブリイ店舗向け青果の加工業務やお掃除を担当するだけでなく、農業法人のアグリンクエブリイ広島で農作業に就労していただくなど、グループ内で多くの障がい者の方たちにご活躍いただいております。今後とも社会福祉法人キャンバスの会様のお取り組みを目標に障がい者のみなさまがいきいき働くことができる環境づくりをさらに進めて参りたいと思います。

最後に、社会福祉法人キャンバスの会様との出会いが、商品だけでなく人材面でも当社にとって本当に大きな財産となりました。これからもキャンバスの会様がますます飛躍されることを祈念しております。

社会福祉法人旭川荘
理事長
末光 茂

「女・石井十次の大活躍に敬意と感謝」

キャンバスの会15周年おめでとうございます。

楠元洋子理事長とのご縁をいただいたのは、わずか1年と8ヵ月前のことです。「輝けみんなのいのち」セミナーで多くのことを学ばせていただいた上に、現場を見学し、驚嘆しました。

実にすばらしい障がい者雇用や重症児デイケアを展開しておられる。宮崎県の豊かな食材を生かしたお弁当の調理と全国配送システムにびっくりしただけでなく、「この食事が人生最後になるかもしれません。心を込めて調理を」との声かけに、心を打たれました。

次々と新しい事業にチャレンジし、経営面でも成功を重ねておられる。まさに、岡山で活躍した宮崎県出身の故・石井十次の現代版、それも女性ということから、私は「女・石井十次」と称させていただきました。

ご承知のように、石井十次は、岡山医学校在学中に巡礼の母から預かった子をはじめ、関東大震災で孤児となった約1,200人の父親として、教育者として献身し、「孤児の父」と称えられています。今のような国の制度のない時代です。

運営資金を手に入れるために、あらゆる知恵と手段を駆使し、国内外を駆け回っています。子どもたちの様子を幻燈に映し、音楽隊を組織し、新聞も発刊し、財界代表の大原孫三郎のような心強い理解者を得ています。

楠元理事長が八面六臂の活躍をしておられる姿は、石井十次のそれと重なります。その原動力は、お嬢さんへの愛情です。まさに「母は強し」です。

福祉の分野には高い理想と志をもつ人が、少なくありません。しかしその多くが経済・経営が苦手です。

その点、楠元理事長は、「福祉の心」と「経営のセンス」の両者を具備した類稀な人と言わざるをえません。そのリーダーシップのもと、すばらしい人材にも恵まれ、快進撃中といえましょう。

わが「旭川荘」の一員、障害者多数雇用事業所「トモニー・ネットワーク」では「昔の『鉄道弘済会』にならないように」心がけています。かつての鉄道弘済会は、旧国鉄構内の売店を独占し、競争原理が働かない独占企業として、そこに安住しているとの厳しい指弾を受けました。

トモニーも、社会福祉法人「旭川荘」を相手にした閉鎖的な独占企業であってはならないとの思いです。

その思いを具体化するだけの力が、不足している我々を、ぜひとも指導・助言いただくべく、楠元理事長には（株）「トモニー・ネットワーク」の顧問役をお願いしています。

「キャンバスの会」のますますの発展充実をご祈念申し上げるとともに、旭川荘ならびにトモニーにも温かい手を差し伸べ続けて下さいますようお願いし、お祝いのあいさつとします。

宮崎県教育長

日隈 俊郎

法人設立15周年に寄せて

社会福祉法人キャンバスの会の創立15周年、誠におめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。

貴法人は、2004年5月にNPO法人として創立されて以来、障がいのある方々を対象とした就労支援や高齢者等の生活・居宅介護、グループホームなど幅広い福祉事業に取り組んで来られており、楠元理事長をはじめ職員のみなさまのこれまでのたゆまぬご尽力に対し、改めて敬意を表しますとともに、長年にわたる本県の福祉の向上へのご貢献に対しまして、深く感謝申し上げる次第であります。

また、2014年度には「障がい福祉サービス事業所はながしま」を設置され、重症心身障がい児（者）やそのご家族等のみなさまの福祉の向上に向け、大変なご苦労の下、鋭意取り組んで来られており、さらには2016年には医療的ケアが必要なレベル等を想定した、先進的な有床診療所および医療型短期入所施設を併設され、利用者のみなさまの期待等に全力を挙げて応えて来られております。

私も施設をお伺いし、その運営のご苦労や課題などについて直接受け止めさせていただき、これまで本県における福祉・医療の政策等の検討に向け、多くのことを学ばせていただいてきたところであります。

一例を申しますと、2030年の本県の将来像を描く宮崎県総合計画に係る「長期ビジョン」を2018年度末に改訂いたしましたが、この中で、「みんなで支え合う福祉社会の推進」を重要施策として掲げ、障がい者の地域生活への移行をはじめ、就労支援の強化や居住の場の確保など、障がい者（児）の自立した生活を支援するとともに、障がい者（児）が障がいの特性やライフステージに応じて、より身近な地域で必要なサービスを受けられるよう、サービスの量の確保や質の向上を進めることとし、さらに、医療や保健分野と連携しながら、重症心身障がい児（者）や医療的ケア児への支援の強化に積極的に取り組むことなどを内容として盛り込ませていただいたところであります。今後、全庁を挙げて取り組みに努めてまいります。

来年は、東京で7月から9月にかけてオリンピックとパラリンピックが、そして本県では10月から12月にかけて初めての国民文化祭・全国障害者芸術文化祭がそれぞれ開催されます。障がいのある人もない人もともに暮らしやすい社会を創り上げて行く絶好の機会であり、大変意義のある年を迎えることとなります。

そういう意味からもキャンバスの会の取り組みがその最前線であり、本県で最も注目される先進的な取り組みであることは間違いありません。

社会福祉法人キャンバスの会のみなさまのさらなるご活躍とご発展を祈念申し上げ、また、一緒に協働してまいりたいという思いを併せて申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

公益社団法人
宮崎市郡医師会　会長

川名 隆司

社会福祉法人キャンバスの会が創立15周年を迎えられるに当たり、宮崎市郡医師会を代表いたしまして、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

貴会は2004年5月、都城市においてNPO法人キャンバスの会として発足いたしました。以来「障がい者（児）に対し、地域社会で自立するための支援事業を行い社会福祉に寄与すること」を理念に活動の幅を広げ、2007年4月には社会福祉法人として認可され、現在に至るまで多岐にわたる福祉事業を展開されておられます。

私ども宮崎市郡医師会は、2016年4月、はながしま診療所が開設される際に関わらせていただきました。同診療所は一般病床19床を持つ有床診療所で、糸数直哉院長の下、障がい者（児）の専門的診療に対応できる数少ない施設として、今後ますますその役割が期待されています。

2016年5月「新たな地域生活の展開」「障害者のニーズに対するよりきめ細かな対応」「質の高いサービスを持続的に利用できる環境整備」を三本柱とする障害者総合支援法改正案が成立しました。そして国際的には、障がいのあるなしにかかわらず、一人の人間として同じように暮らすノーマライゼーションの理念が浸透しています。これらを追い風として、「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援」を目的とする地域包括ケアシステムが、今後、障がい者へも適応されることを望む次第です。

結びに、社会福祉法人キャンバスの会のますますのご発展、ならびに楠元洋子理事長はじめ関係各位のさらなるご健勝とご活躍を衷心より祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

宮崎大学　学長

池ノ上 克

社会福祉法人キャンバスの会の15周年、誠におめでとうございます。障がい児の自立に向けた支援活動を長年にわたり続けてこられたことに心から敬意を表します。

1991年に当時の宮崎医科大学に赴任して以来、宮崎県の周産期医療の充実に取り組んできました。胎児と赤ちゃんの安全を守ることを対象にした医療分野です。産婦人科や小児科の先生および関連する各医療分野のみなさんと協力し合って県内全域に周産期医療のネットワークをつくり、妊娠、出産、育児をサポートする体制作りを行いました。生まれる赤ちゃんが亡くなってしまうことを示す指標である周産期死亡率では、宮崎県は現在、全国トップレベルの良好な状況が続いています。

しかしながら、障がいを持ちながら生まれて育っていくお子さんの率は、依然として変わらない状況です。その原因を究明する研究はまだ道半ばの状態ですが、今後研究が進み全ての赤ちゃんへの確実で安全な医療が確立されることを目指して、私たちも努力を続けて行きたいと思っています。

先日は社会福祉法人キャンバスの会で展開しておられる素晴らしい施設を見学し、また楠元洋子理事長とも色々なお話をさせていただきました。今日の医療福祉の弱点であるとされる障がいをもつお子様やご家族に寄り添う活動を維持し、施設の運営を続けておられることに改めて敬意を表し、お祝いの言葉とさせていただきます。

宮崎大学
地域資源創成学部
教授
谷田貝 孝

　このたび、社会福祉法人キャンバスの会様が創立15周年をお迎えになりました。心よりお慶び申し上げます。

　私は現在宮崎大学地域資源創成学部の教員であり、創造的組織・地域実現のための研究を行っております。ご縁は、2017年に開催されたセミナーでの講演、その後、2018年に「在宅で安心して暮らし続けるための仕組みづくりのための調査・研究事業」に委員長として、学生とともに参加させていただきました。

　楠元理事長の社会的課題に取り組まれ、多くの問題を克服しているお姿を拝見すると、私の恩師故加藤寛先生のお姿が重なります。加藤先生は、経済政策学者であり、常に現場で社会的問題解決のために働いておられました。口癖は、経済学者ピグーが唱えた「社会的情熱」でした。社会問題を強い情熱を持って解決する、そのためにしっかり学べと教えられました。

　現在地域は多くの問題を抱え、将来を不安視する向きがあるのも事実です。しかしながら、よく目を見開くと、楠元理事長のように社会的情熱を持ち、その情熱を現実の世界の中で、政策・制度として実現すべく多くの共感者を募り、困難を乗り越えている、困難を真正面から直視するお姿を見ることができます。将来を担う若者たちが、宮崎においても社会的情熱をもった経営者が存在しており、その情熱が放つ未来を照らす「灯台の光」を若者たちが見失うことのないようにすることが私の役割ではないかと考えております。

　今回の調査・研究事業の中で、福祉の問題を根本的に解決する第一歩として、福祉を正しく認識・理解することの重要性を私自身痛感致しました。その実現のさらに第一歩として「福祉と防災の日」制定を提言しております。まずは宮崎から、そして全国へ、福祉に対する社会的情熱の輪を広げたい、微力ながらそのことに貢献して参りたいと思います。

社会福祉法人
清樹会
ブライトハウス住吉
キャンバスの会評議員
岩下 博子

　キャンバスの会15周年おめでとうございます。私が初めて楠元さんにお会いしたのは、紙おむつの販売活動に取り組まれ、短期間に次々と事業を展開されていくそのダイナミックな力が称賛され始めたころでした。キャンバスの制服を身に着けられ、一見地味な印象でしたが、くるくると天使のように瞳を輝かせ、熱い思いを語られた楠元さんを今も忘れることができません。その後キャンバスの事業は止まることなく驚異的な結果を積み重ね、その実績がヤマト福祉財団の小倉昌男賞へとつながりました。すい星のごとく登場した楠元さんに選考委員の誰もが迷うことなく決定したと伺っています。小倉昌男賞受賞後は、活動が宮崎県から全国へと拡大し、特にヤマト福祉財団の弁当塾では塾長として真摯に一人ひとりに向き合い、卓越した指導力で障がいのある方の工賃向上を達成するなど、大きく貢献されています。

　今、楠元さんはもう一つのとても大きな目標に向けて歩んでおられます。重度障がいのある方々へ楠元さんは山よりも高く海よりも深い「愛」を持たれ、その方々が全人生を通じて日々幸せを感じられるようにとの強い思いから、ひたすら進んでおられます。今の時代、重度の方々の生きる喜びを創造するには医療・福祉・保健のがっちりした連携を元に、それぞれの専門性を整えていくという大変容易ならざる事業と想像します。

　そのために楠元さんを中心に県内外の強力な支援者が大集合して一丸となり事業を推進しておられることを伺っています。すばらしい夢の実現も間近でしょう。

　くるくると瞳が輝く楠元さんの笑顔に勇気をいただき、この15年の日々喜びを感じてこられたことを感謝し、これからもますますキャンバスがはばたき続けられますようお祈り申し上げます。

はながしま診療所
院長
糸数 直哉

　社会福祉法人キャンバスの会設立15周年および重症心身障がい児者（重症児者）のための福祉サービス事業所「はながしま」開設5周年おめでとうございます。「障がいを持つ子どもたちが安全に安心して過ごせる場所を提供したい」という思いから立ち上がったキャンバスの会がわずか十数年の間に次々と事業を起こし、ついには重症児者の福祉支援まで拡大してきた経緯に驚くばかりで、また深く頭が下がります。

　理事長との初めての出会いは7年前で、宮崎市に重症児者の短期入所を一番の目的とした施設を創りたいので手伝って欲しいという相談でした。私自身、長く重症児者と関わる中で、年を重ねるごとに重度化し医療的ケアが高度化していく彼らの難しさを思い知らされてきました。このため、そのときはお断りしましたが、いつの間にか「はながしま」はスタートし、結局、「はながしま」に診療所が併設されたときの止むに止まれぬ事情と経緯から関わることになりました。なので、どうしてこういうことになったのだろうという思いと、重症児者と家族を支えなければいけないという責務が混在しながら今も葛藤の中にいます。

　この先「はながしま」に求められるものはあらゆる意味での施設の充実で、これにはスタッフ一同取り組んで参ります。一方、宮崎県唯一の施設である以上、後戻りはできません。将来を見据えたキャンバスの会であって欲しいと願います。

　「青空というキャンバスいっぱいに障がい者とその家族の思いを描こう」という願いを込めた「キャンバスの会」であり、理事長の思いも止めどなく広がる中、確固たる施設になるよう努力します。

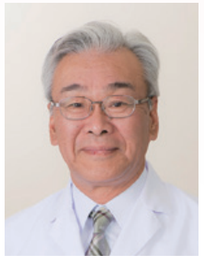
医療法人社団
石川クリニック　院長
石川 直人

　このたびはキャンバスの会15周年おめでとうございます。

　障がい児学童のボランティア活動から重度心身障がい者（児）の医療的ケア児への支援まで、大変な御苦労があったことと思います。私は英国からの留学終了後は宮崎大学医学部第一内科で10年間働き、病棟医長、外来医長を経験したのち2005年3月にこの花ケ島で開業しました。私の医院は消化器内科と放射線科を専門とし、胃、大腸内視鏡検査、腹部、頸部、乳がんの超音波検査、頭部、胸部、腹部CT検査と内科診療を行っております。開院してから14年になり、地域住民のために日々尽くしてまいりました。

　当院の近くはながしま診療所ができてから、月に1-2回程度患者さんの診察をさせていただいております。指定障害福祉サービス事業として、生活介護や医療型短期入所を行っているキャンバスの会のみなさまの献身的な日々の働きには頭がさがる思いです。医療的ケアが必要な重度心身障がい者（児）を在宅介護していらっしゃる家族の方々の苦労は大変なものでしょう。はながしま診療所が、ご家族の方々の負担軽減の一助になれば、これほどすばらしい事業はないと思います。近くの医院とはいえ、内科でもあり、私にとって子どもさんたちの診察を定期的に行うことには不安もありましたが、徐々に子どもさんの気持ちや考えが少しずつわかるようになり安心しております。診察にいきますと楠元さまの熱い情熱もさることながら、従業員の方々の日々の食事や入浴など熱心なケアには感心させられます。

　今後とも、微力ながらキャンバスの会に協力していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

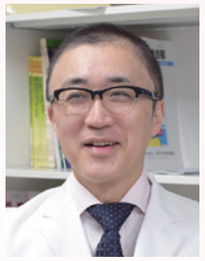


社会医療法人耕和会
迫田病院　理事長
迫田 耕一朗

楠元洋子さんは3月7日、小生より一日早い子年の生まれ、小生はお姉さんと慕う社会福祉法人キャンバスの会の理事長である。出会いは障がい児と暮らす親の会への出席である。宮崎市の中央公民館でパネラーの一人として隣に座った。小生が障がい者の処遇に関心を寄せるきっかけは頸髄損傷で34年間寝たきりであった母の存在である。

楠元理事長は神様から障がい児を授かった。それが花ケ島に重度障がい者の医療施設を立ち上げた原動力である。そのために大きな借金を背負った。障がい児を持つ親に共通する思いは親が去った後の子どもの行く末である。この分野はこの人がやるべき、分担すべき分野を協力する、この人について行く、そう決めた小生である。職員も議員や行政や国も彼女の理念にそして何よりも猪突猛進の行動に惚れ引きずり込まれた。今後の主題は事業の永続と理念の連動である。そこにはさまざまな困難が待ち受けるが楠元理事長の行動に外連味（けれんみ）はない。「自分だったらどう処遇されたいか」を常に念頭において行動している。「暗夜を憂えるなかれ、一燈を引っ提げていく」と覚悟している。頼もしくも心地よい姉御の西郷さんである。

新たな航海は希望の旅、そして流転の旅である。みなさまが健康に恵まれ、ご家族に安らぎが訪れ、キャンバスの会の理念が連動され、ますます良いお仕事がなされますよう念じております。



宮崎大学医学部
発達泌尿生殖医学講座
小児科学分野　教授
盛武 浩

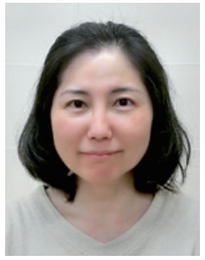
社会福祉法人キャンバスの会誕生15周年、誠におめでとうございます。

私自身が楠元洋子理事長と実際にお会いしたのは2017年7月に教室を主宰する立場になってからですので、キャンバスの会が培われてきた15年という歴史への私自身の貢献は僅かなのですが、逆に楠元理事長が私へ与えたインパクトは絶大でした。

何はさておき、マシンガンのように語られるそのパワーに圧倒されました。私とは初対面の気がしない、とおっしゃっていたので、本当に初対面と感じる方だったら違う対応なのか、私には分かる術がありませんでしたが、お付き合いさせていただくに従い、きっと違わない筈、と確信に変わっています。

重症心身障がい児医療に対する熱い思いを訴えられましたが、私自身も県央部分に専門施設がなく、まずはレスパイトケアのできる施設を充実させる必要があることを考えていましたので、少しでもお役に立てればと思い、週1回ですが医局員の派遣を決めました。楠元理事長は土持正弘事務長という強力なパートナーを得て、さらに大きな夢を抱いて進まれております。私自身がその夢に追いついていける自信はございませんが、当医局としても可能な限りのサポートを行いたいと思います。共通の想いが基礎にありますのでお互い調整しながらきっとうまく進めていけるものと信じております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

末尾になりましたが、キャンバスの会の今後のますますのご発展、そして理事長、事務長をはじめみなさまのご健康とご多幸を祈念して祝辞とさせていただきます。



宮崎県立
こども療育センター
小児科
澤田 一美

社会福祉法人キャンバスの会15周年おめでとうございます。「障がい児さんのお母さんがNPO法人を立ち上げたらしいよ。」キャンバスの会を初めて知ったのもそのころのことです。当時は医局人事で県立こども療育センターに勤務しておりました。

医学部を卒業後、大学の小児科に入局し、新生児医療を志していましたが、子育てをしながらのNICU（新生児集中治療室）勤務は当時難しく、NICU卒業生のフォローアップ外来を経てからの療育センターでした。大学病院の外来では、笑顔を見せることのなかった子どもたちが、センターの保育やリハビリで、支援学校で、満面の笑みを浮かべながら声を立てながら生活していることに驚きを感じていました。病院で見る子どもたちと生活の場の子どもたちの顔がこんなにも違うのか。当たり前のことを再認識したのを鮮明に覚えています。

小児科医を目指す医師の多くは、「子どもたちの命を守りたい」と考えています。もちろん私もその一人です。ただ、命を守れても一定の割合で障がいを残すこどもが存在することも事実です。助かった命が「毎日を素敵に生きること」も大切なことだと思います。重度障がいのお子さんには医療的ケアが必要になることも多く、生活と医療が切り離せない場面も増えてきました。医療と付き合いながら経験を増やす子どもたちに寄り添いつつ、自分にできることを考えていこうと思います。

みえeatデンタルクリニック
院長
キャンバスの会評議員
清山 美恵

15周年、心よりお祝い申し上げます。

口腔外科所属だった私が、宮崎に戻り、脳血管や神経筋疾患の方々、障がい児・者さんに歯科治療や嚥下リハ指導をしていますが、楠元理事長との偶然の出会いで、利用者さんとさらに関わることになりました。

『はながしま』ができてまもなくから、現在は都城の『なみき』でも口腔ケアをし、PTさんと協働して、安全に食べてもらうように食事指導をすることもあります。

利用者さんが感じている不都合さを知り、ご家族の思いを見聞きして来ました。

私は、『はながしま』に出向くたびに、こう思います。

“ここに、みんなのために、これだけの利用空間が準備されている”と。

患者さんご家族の思い、楠元理事長の行動力をもって、宮崎にも『はながしま』ができ、ケアや介助、介護も大変でしょうが熱心に動かれ、私たちにも笑顔のスタッフさんの『ヒト力』に恵まれ、その中に、イキイキしている利用者さんたちがいらっしゃる。

学ばせてもらうことが、本当に多い!

昨年度夏休み、小3と保育園年長の甥二人が、「はながしま」を訪問しました。兄甥が学校行事で障がい児さんたちとの交流を経験したそうで、彼の希望でした。弟甥は始めはぽかーんとしていましたが、何事もなく利用者さんと接している兄を観て、何事もなく、普通に接し始めました。

あるクールな利用者さんが、これまで観たことの無い満面の笑みでキャッキャ言っている!

彼らは普通にお友達。本当にいい光景でした。

キャンバスは、いい学びの場です。ここから地域の方々との交流が、さらに広い地域がバリアフリーとなるよう期待しています。

宮崎県議会議員
キャンバスの会理事

山下 博三

　このたびのNPO法人設立より社会福祉法人設立15周年、誠におめでとうございます。

　本日ここに各界各層から多くのご来賓をお招きし、盛大に記念式典が開催されます事、日頃のご活動への感謝とともに心よりお祝い申し上げます。

　楠元理事長におかれましては、ご主人亡き後障がいのある娘さんの佳子さんを抱え、「親亡き後に我が子が安心して暮らせるように」との想いを現実にするため、必死でともに同じ境遇にある親御さんの先頭に立たれ、一度も立ち止まることなくここまで走ってこられた人生だったと思います。

　キャンバスの会設立後は利用者のみなさんの職の確保、工賃向上への取り組み、親亡き後の子どもさんのための住処作り、また重身のお子さんへの医療的ケアへの取り組みなど、障がいとともに生きるご家族への支援への熱い情熱は設立当時と全く変わることなく、日々取り組まれておられます。

　私も当会理事職を拝命し、障がい者支援の原点を楠元理事長よりご教授いただきました。

　宮崎県が重点事業として取り組んでいる農業と福祉の連携にも数年前から取り組まれており、時代の流れを的確に読みつつ、障がい者の方々の未来が明るく健やかであるよう、常日頃からアンテナを張り巡らされているお姿に感服致します。

　また、日頃より利用者のみなさん、楠元理事長を支えてくださっているスタッフの方々にも心より感謝申し上げます。

　今後ますますのご発展をご祈念申し上げ、祝辞と致します。

はしぐち小児科　院長
キャンバスの会理事

橋口 兼英

　15周年おめでとうございます。

　15年程前に、2～3人のお母さんが来られ“障がい児の放課後の学童保育を始めたいので理事になってください”と頼まれたのが最初でした。支援学校の教室を借りて数人で始まり、オムツ販売・弁当販売・就労支援等、ついに診療所まで作ってしまいました・・・楠元理事長らの母親のパワーには敬服するばかりです。

　次の一手は何でしょう?

三股町議会　議長
キャンバスの会理事

池辺 美紀

　2004年にNPO法人として楠元洋子さんが立ち上げた「キャンバスの会」。当初は学童保育、居宅介護や短期入所施設として開設。その原動力は、娘（佳子さん）を想う深い愛情と、どんな時も寄り添う温かい気持ち、そして私が守るという母親の強い気持ちであります。設立当初から利用者の笑顔が家族の喜びであり、それが社会貢献につながっていることが変わらぬ理念から伺えます。

　その思いがさらに膨らみ、2007年4月に社会福祉法人として発足、わたくしはその準備段階から微力ながらお手伝いをさせていただいております。

　いまなお、忘れられないのは、初代理事長の楠元義文さんのことであります。社福立ち上げから間もなく入院され、重病だとお聞きし、お見舞いに伺うと、ベッドで実に明るい顔で応対いただきました。数日後事務所に伺うと、驚くことに事務所で仕事をされていました。顔色がよろしくなかったので、体を気遣い「大丈夫なのですか」と声をかけましたら、「月末で心配だったから」と黙々と書類に目を通しておられました。後でわかったことですが、病状はかなり進行しており、数週間後逝去という厳しさでありました。座っているだけでもきつい状態で、体をおして事務所で作業を重ねておられたその姿は今でも忘れることができませんし、義文氏が命がけで大事に思っていたキャンバスの会をこれからも盛り上げていかなければならないと改めて思うところです。

　キャンバスの会15年の歩みは、日本の地域福祉のモデルケースであり全国から視察も相次ぐほど大きな注目を集めています。日本の福祉のためにさらなる発展をご祈念申し上げます。

鹿島税務会計事務所
税理士
キャンバスの会理事

鹿島 昇

　このたびは、創立15周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

　楠元理事長と初めてお会いしたころのことは今でも鮮明に覚えております。

　今から15年前のある日、私の事務所にお二人の女性が飛び込みで「NPO法人を設立したので税務会計の顧問をお願いしたい」ということで相談に来られたのですが、その中のお一人が今の楠元理事長でした。

　当時は、まだ、楠元理事長のご自宅の2階を事務所として紙おむつ等の販売のみを行う小さな事業所でしたが、私自身その当時を知る者の1人として、あの時のキャンバスの会が今日のような姿に大変身を遂げるとは全く想像しておりませんでした。2007年の社会福祉法人設立当初は、楠元理事長のご主人も会の運営に従事され、理事長を支えておられましたが、最愛のご主人が病に倒れ、亡くなられた時も、楠元理事長は、悲しみを乗り越え、今日まで社会福祉事業に邁進されて来られました。

　15年という長い年月の中、キャンバスの会が現在の社会福祉法人として、今日に至るまでには決して順風満帆な時ばかりではありませんでしたが、多くの困難も乗り越え、今では地域社会にとって、なくてはならない存在となりました。

　このたびの創立15周年を一つの通過点として、今後も楠元理事長を中心に、職員のみなさまや会に関わるすべてのみなさま方が「キャンバスの会の理念」を共有し、地域社会のリーダーシップを発揮していかれることを祈念いたしております。

大淀開発株式会社
代表取締役
キャンバスの会評議員

堀之内 芳久

社会福祉法人キャンバスの会が創立15周年を迎えられ、記念式典が開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

楠元理事長ならびにスタッフのみなさまにおかれましては、就労継続支援事業のみならず重心者（児）のための支援にご尽力いただいておりますことに深甚なる敬意を申し上げます。

貴法人におかれましては、2004年にNPO法人として、また2007年に社会福祉法人として認可を受けられて以来、障がい者（児）に対して、地域社会での自立を実現するための支援に関する事業をもって社会福祉に寄与するという基本理念のもと、就労継続支援事業所を中心とする施設の拡充に努められました。弊社と致しましても2011年の「お弁当のまるよし」就労継続支援A型・B型事業所開設、2013年の「CBSリネンサービスとしみ事業所（就労継続支援A型）」開設、2014年の「障がい福祉サービス事業所はながしま（生活介護・短期入所・日中一時）」開設にあたって建設の協力をさせていただき、また貴法人の事業に側面ながら寄与できたことを誠に光栄に存じます。

結びに、楠元理事長の「障がいのある我が子が、親亡き後も安心して暮らせるように。」という思いからスタートしたキャンバスの会のさらなるご発展と、これから障がい者が地域でいきいきと安心して暮らせますようにご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

宮崎市大宮地区
花ケ島自治会長

瀬ノ口 隆宏

社会福祉法人「キャンバスの会」が発足して15年目を迎え、また、宮崎市の「障がい福祉サービス事業所　はながしま」ができて5年となるとのこと、大変な事業を推進されていることに対して、お祝いの言葉をお送り致します。

「キャンバスの会」との出会いは、2014年6月に大宮地区・花ケ島自治会内の入道地区に「障がい福祉サービス事業所　はながしま」が設立されたことからのお付き合いとなります。宮崎の前に都城市での支援活動を10年以上されていたとのこと、また幅広い支援活動をされていたとのことなどを知り、驚いたことを思い出します。宮崎市内の福祉関係の学校や事業所は、青葉町や清武町その他の地区で目にすることがあります。また、花ケ島地区には、高齢者に対する支援施設が2箇所、知的支援施設も別に1箇所あり、花ケ島にとっては有難いことです。

身近な「障がい福祉サービス事業所　はながしま」ですが、活動内容については当初、重度身障者受け入れ施設としか聞いていませんでした。現在では常時介護を必要とする障がい者の方々の入浴や排泄、食事などの介護や創作活動、生産活動などの「生活介護支援」を行ったり、障がい者の家族の負担の軽減を目的とした「日中一時支援活動」、また短期間の入所により、家族の負担軽減につながる活動「医療型短期入所」などの介護活動内容もより具体的になり、支援活動の充実に努めておられるとのこと。ますます発展されることを望むばかりです。

地域住民としても、地域内のこのような施設等の理解を深め、近隣の自治体と協力してともに発展していきたいものです。

キャンバスの会はどんな色

15年のあゆみと事業所メッセージ

24 —— キャンバスの会15年のあゆみ
26 —— 給食センターキャンバス
27 —— ふれあい野菜市 お弁当のまるよし
28 —— CBSリネンサービスとしみ
29 —— CBSリネンしゃぼん キャンバス配送センター
30 —— 生活介護事業所なみき 短期入所事業所さくら 放課後等デイサービスとしみ
31 —— 居宅介護支援事業所キャンバス 共同生活事業所キャンバス
32 —— 障がい福祉サービス事業所はながしま はながしま診療所

キャンバスの会 15年のあゆみ

2004（平成16）年

05月　『NPO法人キャンバスの会』設立（宮崎県都城市）

06月　日常生活用具給付委託事業を受ける

08月　学童保育をボランティアで実施

　　居宅介護、レスパイトサービス「くれよんはうす」を開始

10月　在宅障がい児育成支援を開始

2005（平成17）年

04月　「身体障がい者デイサービス　ぱすてるはうす」開設

09月　「くれよんくらぶ」開設（平成19年9月より、就労継続支援A型事業所の「CBSリネンサービス」を置き、リネンの作業を始める）

10月　都城市役所前に障がい者雇用の店として、「紙おむつ専門店キャンバス」を開店

2006（平成18）年

02月　「知的障がい者デイサービス　ぱれっとはうす」開所（同年10月、障害者自立支援法により重度障がい者生活介護事業所）

07月　小規模作業所上町と小規模作業所中町を開設

10月　障害者自立支援法による就労移行支援事業所「あとりえ」を開設

11月　中央通り商店街（都城市）の空き店舗を利用して、障がい者と高齢者雇用の「ふれあい野菜市」を開店

2007（平成19）年

03月　共同生活事業所「姫城ホーム」開設

　　NPO法人キャンバスの会より建物の寄附を受けて、社会福祉法人キャンバスの会設立準備を開始

04月　『社会福祉法人キャンバスの会』設立認可　事務所を都城市南鷹尾町13街区2号に置く

　　初代理事長　楠元義文就任

　　社会福祉法人キャンバスの会として指定障害福祉サービス事業所指定申請を行う

　　「給食センターキャンバス」（就労継続支援A型･B型）を開設

06月　「給食センターキャンバス」は指定障害福祉サービス事業所の指定を受け、就労継続支援A型（雇用型）定員15名、就労継続支援B型（非雇用型）定員15名の多機能型で事業を開始

07月　「給食センターキャンバス」で給食事業（昼食弁当の宅配）を開始

2008（平成20）年

04月　NPO法人キャンバスの会で「CBSリネンサービス早水事業所」（就労継続支援A型･B型）を開設

09月　「給食センターキャンバス」併設の駐車場に事務棟を増築

2009（平成21）年

04月　NPO法人キャンバスの会で国･県の指定を受け、「みやこのじょう就業･生活支援センター」開設

　　2代目理事長　楠元洋子就任

11月　NPO法人キャンバスの会で共同生活事業所「久保原西ホーム」を開設

12月　NPO法人キャンバスの会で「CBSリネンサービス都北事業所」（就労継続支援A型）を開設

2010（平成22）年

03月　NPO法人キャンバスの会で共同生活事業所「久保原東ホーム」を開設

05月　NPO法人キャンバスの会より社会福祉法人キャンバスの会に2事業を移管
　1「ふれあい野菜市」
　2姫城ホーム･久保原西ホーム･久保原東ホーム
　（移管後改めて共同生活事業指定を受ける）
社会福祉法人キャンバスの会の事業として
･地域生活支援事業開始
･相談支援事業所キャンバスを開設
･居宅介護支援事業所キャンバスを開設
･補装具（紙おむつ）交付委託事業開始

07月　NPO法人キャンバスの会より社会福祉法人キャンバスの会にリネン事業を移管
「CBSリネンサービス都北事業所」
（就労継続支援A型／平成21年12月開設）
「CBSリネンサービス早水事業所」
（就労継続支援A･B型／平成20年4月開設）

09月　「株式会社丸佳」設立

10月　共同生活事業所「久保原南ホーム」開設

2011（平成23）年

08月　短期入所事業所「さくら」を千町5236番地3に開設　定員5名

11月　地域活動支援センター「なみき」を千町5236番地3に開設　定員5名

12月　「お弁当のまるよし」就労継続支援A型･B型を早水町9-1に開設　利用定員A型15名･B型10名

2012（平成24）年

03月　共同生活事業所「広原ホーム」開設
利用定員10名

　　姫城ホーム、久保原西ホーム、久保原東ホームを閉所し、ホームの利用者を広原ホームへ移籍

08月　地域活動支援センター「なみき」を年見町30号1番地2に移転

09月　短期入所事業所「さくら」を年見町30号1番地5に移転、利用定員10名に変更して再開

　　共同生活事業所「としみホーム」を開設

2013（平成25）年

01月　「CBSリネンサービスとしみ事業所（就労継続支援A型）」開設　利用定員20名

　　（株）丸佳が食品加工工場「就労移行支援事業所としみ」として指定を受ける

11月　地域活動支援センター「なみき」が生活介護事業所の指定を受け、名称を「生活介護事業所なみき」とする

2014（平成26）年

06月　「障がい福祉サービス事業所　はながしま」（生活介護･短期入所･日中一時）を宮崎市に開設

09月　「AZMレストラン（就労継続支援A型）」利用定員10名を宮崎市に開設

　　「キャンバス配送センター（就労継続支援A型）」利用定員10名／AZMレストランに含む、を宮崎市に開設

10月　都城市と日中一時支援事業を契約。「日中一時支援キャンバス」の事業を開始

11月　曽於市（鹿児島県）、三股町と日中一時支援事業を契約

2016（平成28）年

04月　「障がい福祉サービス事業所　はながしま」内に「はながしま診療所」を開設

06月　志布志市（鹿児島県）と日中一時支援事業を契約

　　「CBSリネンサービス都北事業所」が「CBSリネンサービスとしみ事業所」に統合され、廃止

07月　「CBSリネンサービスとしみ事業所」の就労継続支援A型が利用定員40名に変更

　　「CBSリネンサービス早水事業所（就労継続支援A型）」が早水町から都北町に移転し、「CBSリネンしゃぼん」に名称変更。就労継続支援A型･B型ともに利用定員10名に変更

12月　「共同生活事業所　都原」を開設

2017（平成29）年

04月　日本財団の助成を受け、県内外から多彩な講師を招き重症心身障がい児（者）の医療的ケアに関する多職種セミナー“輝けみんなのいのち”を年間を通し6回開催
（2017年7月から2018年2月まで）

08月　「CBSリネンサービスとしみ事業所」の就労継続支援A型が利用定員20名に変更

2018（平成30）年

01月　六次産業化･地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受ける

05月　宮崎市のキャンバス配送センター（就労継続支援A型）利用定員10名を主たる事業所、はながしま診療所（就労継続支援A型）利用定員10名（AZMレストランを含む）を従たる事業所として変更申請した

　　公益財団法人ヤマト福祉財団障がい者福祉助成金から助成を受け、『重症心身障がい児（者）の望ましい支援や制度構築のための研究事業』を宮崎大学地域資源創成学部谷田貝教授と学生の協力を得て実施

　　7月には”生きるを支える”重症心身障がい児（者）の地域生活を支える仕組みづくりを一緒に考える講演会を開催し、障がい児（者）を正しく理解することと、災害時対応についての学びと調査を実施。調査結果を政策への提言としてまとめ宮崎県へ提出

12月　共同生活事業所都原を閉所し、ホームの利用者をグループホーム広原に移籍

2019（平成31）年

03月　共同生活事業所久保原南を閉所し、ホームの利用者をグループホームとしみに移籍

　　「AZMレストラン（就労継続支援A型）」（宮崎市）が閉所

　　「日中一時支援キャンバス」事業を終了

04月　放課後等デイザービスの事業として「放課後等デイサービスとしみ」を開設

05月　キャンバスの会15周年、記念式典･講演会を開催

給食センターキャンバス

都城市南鷹尾町　開設:平成19年4月
定員:就労継続支援A型　15名　就労継続支援B型　25名
事業内容:弁当･配食サービス、食品加工･販売、農業他

平成19年に社会福祉法人キャンバスの会が設立されるのと同時に事業を開始しました。食品加工･販売、農業などを行っています。平成30年1月には農林水産省から六次産業化･地産地消法認定総合化事業計画「農福連携によるにんじん生産と加工品の製造販売事業」の認定を受け、6次産業化と施設外就労としての野菜袋詰めやニラ選別作業などを取り入れ、工賃のさらなるアップに取り組んでいます。

池邊育人サービス管理責任者の一言

平成19年に入職後、「障がい者の地域での自立を実現するための支援を行う」という理念のもと、なお一層の充実した福祉サービスの提供に務めています。障がい者のみなさまが経済的に安定できるよう、工賃の向上並びに安心して継続的に働くことのできる事業所を目指します。

黒木重人施設外就労責任者の一言

（有）グリーンエースで施設外就労のB型の利用者さんとともに生産を上げるために、一人ひとりの強みを生かす支援をしながら日々頑張っています。

坂元勝久食品加工工場長の一言

食品加工の仕事を通して、安心で安全な加工食品を利用者様と一緒に作り上げていくことに喜びを感じています。今後も新しい商品を含め、利用者様と一緒に頑張っていきます。

ふれあい野菜市

都城市上町　開設：平成 22 年 5 月
就労継続支援A型

惣菜･野菜･酒類の販売を行っています

お弁当のまるよし

都城市早水町　開設:平成23年12月
定員:就労継続支援A型　15名　就労継続支援B型　10名
事業内容:弁当･配食サービス

平成23年12月に開設した弁当･配食サービスを主事業とする「お弁当のまるよし」。都城市内外の18カ所の高齢者施設をはじめ個人宅へ、朝･昼･夕食を1日約600～700食お届けしています。管理栄養士や調理師たちと利用者のみなさんがつくる心のこもったお弁当です。

房野美咲責任者の一言

利用者様が働きやすい環境であるように、コミュニケーションを第一に取り組んでいます。

吉西明生料理長の一言

利用者様とともに常に衛生管理を第一にお客様に喜ばれるお弁当を提供するために日々取り組んでいます。

亀元千賀子管理栄養士の一言

気づきを大切に、誰もが喜ぶお弁当を目標に献立をたてています。

利用者様の一言

・働ける環境を作ってくださりありがとうございます。
・お客様に迷惑をかけないように毎日丁寧に仕事をしています。
・できることが増えてくると嬉しいです。

CBSリネンサービスとしみ

都城市年見町　開設:平成25年1月
定員:就労継続支援A型　20名
事業内容:リネンサービス、レンタルクリーニング

平成25年1月に開設。宮崎県内外工場、飲食店、病院、高齢者施設44社のクリーニング、レンタルクリーニングを行っています。利用者のみなさんに多くの可能性を提供できるように、クリーニングの工程を多種多様な作業に分解。専門のスタッフが支援・指導をしてみなさんの工賃アップにつなげています。

主な作業内容

●配達（納品・集荷）　●受け入れ　●仕分け　●洗濯・乾燥
●アイロン　●たたみ　●出荷　●縫製　●衣類修理

倉満竜也工場長の一言

今までに培ってきた経験を活かして多角的に支援指導するように努め、利用者様の今後の人生を背負う覚悟です。

大野康孝サービス管理責任者の一言

悩みを抱えている利用者様に対して、耳と十の目と心を持って『聴く』姿勢を心掛け、ともに考えながら可能性を引き出す支援をしていきます。

利用者様の一言

・私は聴覚障がいを持っています。入社した頃は、みなさんとコミュニケーションを上手く取れるか不安がありましたが、周りの方々の理解があり、毎日楽しく働いています。
・私はまだ働き始めて間もないですが、社員の方や利用者のみなさんに沢山の仕事を教えていただき、楽しく働いています。本当に良い方ばかりで、これからも楽しみです。
・利用当初は、突然障がい者になってしまった自分に戸惑いましたが、多くの支えをもらい、自信を持って仕事ができるようになり、今ではクリーニング師の資格を取得することができました。これからも頑張ります。

CBSリネンしゃぼん

都城市都北町　開設:平成28年7月
定員:就労継続支援A型　10名　就労継続支援B型　10名
事業内容:リネンサービス

CBSリネンサービス早水（平成20年4月開設）が早水町から都北町に移転し、「CBSリネンしゃぼん」に名称変更しました。地元の産婦人科の産着や白衣、介護施設のタオルなどの洗濯・リネンサービスを行っています

主な作業内容

●仕分け　●洗濯　●乾燥　●たたみ　●結束　●包装作業

有馬 孝サービス管理責任者の一言

達成感や喜び、苦しみを利用者様と分かち合いながら日々作業し、売り上げを伸ばし工賃アップにつなげていくよう頑張って支援しています。

利用者様の一言

・毎日楽しく仕事をさせてもらっています。
・目標を目指して日々努力しています。これからもよろしくお願いします。
・良い職場を提供してくださりありがとうございます。とても自分に合った仕事だと思っています。
・楽しい仕事です。お弁当も美味しくいただいています。

キャンバス配送センター

宮崎市清水　開設:平成26年9月　定員:就労継続支援A型　10名
事業内容:クリーニングのルート配送、おむつ類の宅配業務（自治体委託事業）

宮崎市に配送の拠点として平成26年に開設。CBSリネンサービスの配送と補装具（紙おむつ）交付委託を受けた紙おむつなどの配達を宮崎市内外へ行っています。

児玉 尚サービス管理責任者の一言

5年前の宮崎市での開設当初より携わっており、利用者様、スタッフとともに和気あいあいと楽しく励んでいます。

北岩孝子補装具（紙おむつ）交付委託担当の一言

お客様からのご相談ご要望にできる限りお応えできるよう心掛けています。

生活介護事業所なみき

都城市年見町　開設:平成23年11月
定員:15名
事業内容:生活介護事業

平成23年11月に地域活動支援センターとして開設し、平成25年11月に生活介護事業所の指定を受けました。なみきでは、入浴介護や食事介助はもとより、日中活動として音楽療法を兼ねたダンスや手話音楽、創作ダンスなどをしたり、大きな紙にはり絵や塗り絵をしたり、体力の増進や維持を図りながら楽しく毎日を過ごしています。

山元まり子サービス管理責任者の一言

利用者さんが楽しみや生きがいを持って過ごせるお手伝い、またご家族の想いに寄り添えることを意識して支援を行っています。

短期入所事業所さくら

都城市年見町　開設:平成23年8月
定員:10名
事業内容:短期入所事業

ご家族の介護負担の軽減、疾病や旅行、急な催しの時などに利用していただく短期入所施設です。宿泊、入浴介助、食事介助、服薬管理などのサービスを行っています

放課後等デイサービスとしみ

平成31年4月に開設しました。就労準備型の新しい放課後等デイサービスです。どうぞよろしくお願いします。

居宅介護支援事業所キャンバス

都城市南鷹尾町　開設:平成22年5月
事業内容:居宅支援事業

居宅の介護、調理、掃除、買い物代行のお手伝いなども行います。通院には、福祉有償サービスで支援を行っています。

共同生活事業所キャンバス

グループホームとしみ／開設:平成24年9月　定員:8名
グループホーム広原／開設:平成24年3月　定員:10名

市内2カ所のグループホームで約20名の利用者様が日常生活の拠点として利用されておられます。自立を目指しそれぞれの職場や作業所で働き、生活の質を高めることができるよう世話人や生活支援員から日常の支援を受け生活しています。

瀬之口真弓サービス管理責任者の一言

自分の城であるホームの自室での生活を大事にしながら、しっかり自立が目指せるよう、利用者様の希望や夢を聞き、思いに添った支援ができるよう心掛けています。

障がい福祉サービス事業所 はながしま
（生活介護・日中一時支援事業）

宮崎市花ヶ島町　開設:平成26年6月
定員:生活介護　20名、日中一時　20名
登録者数:生活介護　53名、日中一時　78名
事業内容:生活介護・日中一時支援事業

重症心身障がい児（者）の方々を対象とした通所の施設です。重症心身障がい児（者）の方々はもちろんのこと、医療的ケアが必要な方も、併設のはながしま診療所をご利用いただけます。

米倉照代はながしま施設長の一言

当事業所も開設から5年になります。2年が経過した時に、はながしま診療所が開院し、先生方のご協力をとても心強く感じました。今後も理事長の目標である「親亡き後」を見据え、当法人のさらなる取り組みに職員とともに努力してまいります。これまでご尽力いただきました保護者や関係諸機関の方々に深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

はながしま診療所
（医療型短期入所事業）

宮崎市花ヶ島町　開設:平成28年4月
定員:19名　登録者数:73名　職員数:41名
事業内容:医療型短期入所事業

併設の障がい福祉サービス事業所はながしまへの医療的な側面のバックアップと10名以上の看護師配置により、住み慣れた地域でみなさまが安心して在宅の生活が継続できるようにお手伝いしています。医療型短期入所は日曜祝日も営業しており、送迎、入浴のご希望に可能な限り対応しています。

糸数直哉はながしま診療所院長の一言

はながしま診療所開設時から院長の責務を負うことになりました。歴史ある他施設に比べると生まれたばかりのような施設なので、重症者への介入に関するスタッフのスキル向上に努めながら、利用者の安全と安心を保証できる施設を目指します。

保護者の一言

・医療型短期入所でお世話になり始めてから、安心して預けることができ、妻と二人で小旅行にも行けるようになりました。大変感謝しております。

15期役員・スタッフ（2019年1月1日現在）

理事長

楠元　洋子

理事

柿木原康雄　橋口　兼英　山下　博三　池辺　美紀
鹿島　昇　山元　まり子　池邊　育人

監事

小野　孝一　鳥集　寿一

評議員

岩下　博子　井ノ上 義昭　清山　美恵　川崎　安彦
高峰　由美　田原　新一　堀川　渉　堀之内芳久
山下　博

キャンバスの会

楠元　洋子　山元　まり子　池邊　育人　稗嶋　康裕
黒木　重人　房野　美咲　大野　康孝　吉西　明生
有馬　孝　瀬戸山勝美　児玉　尚　甲藤　謙治
今門　篤宏　木之下春美　坂元　勝久　倉満　竜也
熊谷雄一郎　安田　武志　亀元千賀子　川瀬　灯恵
河﨑　浩　矢通　悦宏　松本 あかり　横山　恵子
大谷　和子　水流添尚子　濵川　由紀　瀬之口真弓
山下　トミ子　浅井千代子　甲斐　典子　平田　より子
満木　敏子　橋口志津子　森　ゆみ子　北岩　孝子
酒井美枝子　高井田さおり　藤山　里美　山内　俊子
温水　順子　北川　和代　松田　政彦　丸目　洋子
山田　純子　井上　美和　清水久美子　池尻　順子
山田美智子　本村　裕子　吉川　恵子　福盛　節子
高牟禮明弘　今井　知美　勝又　紀子　田中　清子
松﨑　隆憲

はながしま

米倉　照代　土持　正弘　甲斐　稔　日髙　新也
南﨑　敬裕　山浦　雅代　對嶋　碧　松浦　千夏
菊池　哲男　伊集院誠史　増田　美香　湯地里佳子
池田　厚子　修理　賢二　大野宰八郎　比嘉　千秋
上杉　正樹　村田　智子　正田紗和子　矢野未奈美
品川　瞳　髙瀬　祐子　加山　一成　北村　幸子
三浦美由紀　西島美佐江　白糸　ちよ子　柴原　ルミ子
長友　一樹　酒井　宣朗　児島　達也　坂之下光代
海老原まゆみ　菊田　厚　仲田　由佳　三上 かおり
佐々木里奈　河野利衣子　川越奈保子　深川　彩花

ありがとう 15周年

発行　社会福祉法人キャンバスの会
宮崎県都城市南鷹尾町13-2
TEL 0986-51-5132

発行責任者　楠元洋子
発行日　2019年5月25日
編集・制作協力　株式会社プランニングハウスHARA